

松尾倶楽部講演会の報告（小林君と久しぶりの再会）

山極時生（10 組）

「65 期喜寿記念同期会」の丁度 1 週間前の土曜（7 月 5 日 14:30~）に連合会館（神田駿河台）にて、松尾倶楽部主催の長野大学学長 小林淳一氏の講演「企業での経験を活かした大学経営」があるとの情報が上原昇君（2 組）から入った。小生は松尾倶楽部の会員ではなく、その頃は出張が重なるが、小林君とは塩田中学校、上田高校を同期、そして、就職した日立製作所では（氏は大学院後の入社）、同じ研究開発本部内の機械研究所、小生は日立研究所ということでの繋がりもあり、時間を調整しゲスト参加した。

猛暑続きの暑い中ではあったが、講演会には 30 名を超える参加があり、65 期からは小林君はじめ上原、原田義則（3 組）、宮原豊（9 組）、岡田修（11 組）の各氏と小生の 6 名の参加であった。

近藤正昭代表幹事(69 期)の挨拶の中で、本講演は当初 7 月 12 日(土)予定だったが、65 期の喜寿同期会と重なるので、1 週前の開催となったとのこと。



講演中の小林君

講演は「1. 自己紹介、2. 企業におけるビジネスモデルの変化、3. 秋田県立大学における大学運営の改革、4. 長野大学の変遷、5. 大学教育で目指すべき方向性（長野大学における組織、教育改革）」であり、氏ならではの 30 年間の企業での研究・開発における経験（本社関係、研究所・研究室長/部長等）、2007 年からの秋田県立大学での大学運営改革の経験（教授から理事長兼学長）を加え、2023 年からの長野大学における組織改革などの現状について、分かり易く講演された。

長野大学は 1966 年に本州大学として開学したが、長野大学への改称、2017 年に私学として解散し、上田市を設立者とする公立／長野大学となり現在に至っている。氏は私学時代からの制度から抜け出せない第 1 期中期計画を引継ぎ、第 2 期中期計画(2023~2028)として改革に奮闘されている。その中には地域への貢献の強化策として「新たな理工系学部設置と既存学部統合」の推進もある。

現状での学生の構成として過半数が女子学生であり、県外出身者比率が 3 割から 7 割に変化し、県内への就職率も向上しているとのことは驚きであった。



講演会の様子（松尾倶楽部事務局提供）

小林君との久々の対面では、氏が機械研究所時代に「ねずみ会(昭和 23 年生れ)」なる形で数人のグループをつくり、氏の故郷への「秋の塩田平での“松茸狩り”」+「別所温泉での宿泊」を約 10 年間継続していたことを思い出した。別所温泉での宿泊先は小生の実家「玉屋旅館」であり、何度か誘われたが、その頃小生は工場の開発部隊の纏め役であり、調整つかず一度も参加できなかったのは残念であった。

同期の参加者とは「また次週、喜寿同期会で・・・」と言って別れた。

小林君が腕を振るわれ、故郷の長野大学の増々の発展を祈念している。

【原田義則(3 組)追記】

内容は勿論のこと、ストーリーもクリアで素晴らしい講演でした。

一緒に仕事をしたことは無いものの、「博士課程修了後に日立製作所に中途採用で入り、大学への転出時期も全く同じで、大学では企業での経験を活かした活動をしている」と言う共通の経歴を持ち、かつ日立製作所内でも共通の知人を何人も持つ私達ですので、共感を持って話を聞くことができました。

「教育の質」評価のための「学生側による評価システムの導入」とか、「社会貢献」のための仕組み作り・起業支援など、私が今でも大学で関わって居る課題は小林君の大学でも同様に課題として抱えていることを知りました。全て納得すると共に、これらは大学だけでは解決できず、今後益々社会全体（政府、地方自治体も含めて）として大学での教育の質向上に貢献する必要性があることを感じました。

（2025 年 7 月 7 日記）

以上